

2019.09.15 第3主日あかし礼拝

ヨハネ 6:1-13 「5つのパンと2匹の魚」

### 聖書

- 1 その後、イエスはガリラヤの湖、すなわち、ティベリアの湖の向こう岸に行かれた。
- 2 大勢の群衆がイエスについて行った。イエスが病人たちになさっていたしるしを見たからであった。
- 3 イエスは山に登り、弟子たちとともにそこに座られた。
- 4 ユダヤ人の祭りである過越が近づいていた。
- 5 イエスは目を上げて、大勢の群衆がご自分の方に来るのを見て、ピリポに言われた。「どこからパンを買って来て、この人たちに食べさせようか。」
- 6 イエスがこう言われたのは、ピリポを試すためであり、ご自分が何をしようとしているのかを、知っておられた。
- 7 ピリポはイエスに答えた。「一人ひとりが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません。」
- 8 弟子の一人、シモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った。
- 9 「ここに、大麦のパン五つと、魚二匹を持っている少年がいます。でも、こんなに大勢の人々では、それが何になるでしょう。」
- 10 イエスは言われた。「人々を座らせなさい。」その場所には草がたくさんあったので、男たちは座った。その数はおよそ五千人であった。
- 11 そうして、イエスはパンを取り、感謝の祈りをささげてから、座っている人たちに分け与えられた。魚も同じようにして、彼らが望むだけ与えられた。
- 12 彼らが十分食べたとき、イエスは弟子たちに言われた。「一つも無駄にならないように、余ったパン切れを集めなさい。」
- 13 そこで彼らが集めると、大麦のパン五つを食べて余ったパン切れで、十二のかごがいっぱいになった。

## はじめに

イエスさまの数々の奇跡のうち、唯一全福音書に載っているのが、5つのパンと2匹の魚の話です。男だけで5,000人の空腹を満たすイエスさまの奇跡について、どんな風に5つのパンと2匹の魚が増えて人々の空腹を満たしたのか興味あるところではありますが、その詳細は分かりません。でも、この奇蹟によってイエスさまがどのような方であるのかが証され、イエスさまの奇跡に触れた人たちが確かに変えられていることを見ると、変化の鍵はイエスさまにあることが分かります。この礼拝を通してイエスさまの臨在に触れることができれば幸いです。

### 1. ピンチがチャンスに

すでにイエスさまの噂は巷に広がり、行く先々で黒山の人だかりができました。そこには、抱えている問題の解決を願う人もいれば、興味本位で集まる人たちもいました。ヨハネ6章の場面では「イエスが病人たちになさったしるしを見たから」(2節)と人々が集まって来た理由が記されています。マタイの福音書を見ますと、場所は人里離れたところで、時刻も夕暮れにさしかかるところでしたから、弟子たちはそろそろ群衆を解散させなければと考えたようです。しかしイエスさまは、群衆が空腹であるのを見て、弟子のピリポに「どこからパンを買って来て、この人たちに食べさせようか。」(5節)と尋ねました。実はこの質問には裏があって、イエスさまはピリポを試そうとされたのです。

群衆の数は男性だけでも5,000人。女性・子どもを含めればもっと多くの人たちがいました。ピリポはこの状況に対して、理性的な判断を下します。「一人ひとりが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません。」(7節)。200デナリとは、200日分の賃金に相当する金額で、それをもってしてもこのおびただしい人々の空腹を満たすことは不可能だと判断したのです。実はこの状況こそが、イエスさまが願っておられる状況なのです。すなわち、人の力でこの状況を打開することは不可能だからです。私たちが白旗をあげるとき、そこでなされる一つ一つがイエスさまの業であることが証明

されるのです。ですから、人間にとっての窮状はイエスさまにとってご自分の御力を現す絶好の機会になるのです。今、不足を抱えている人がいるでしょうか。その人には望みがあります。イエスさまがその不足を補って余りある祝福を注いでくださるからです。

## 2. 満たされた経験

問題の中にイエスさまが介入してくださるとき、明らかな変化が生じます。その変化は空腹だった人が食べて満腹したということです（マタイ 14:20）。満腹感人は人を幸せにします。それは単に胃袋を満たすだけの話ではなく、心にも満たしをもたらし、心と身体の両方に幸せ感を与えるのです。

昨日は「豊田キッズフェスティバル」が行われました。豊田スタジアム脇の千石公園で開催しました。準備にあたりながら、決して十分な案内がなされたとは言えず、不安を抱えながら200人分のジュースなどを用意しました。千石公園は豊田スタジアムの脇とはいえ、人が溢れるような場所ではなく、普段はほとんど人がいません。果たして人が来るだろうかと不安な気持ちで15:00の開始時間を待ちました。開始直前まで準備に追われ何とか会場設営が終わると、今までに経験したことがない光景を目の当たりにしました。どこからともなく人が集まってくるのです。公園は河川敷の中にありますので、土手を越えて会場に入らなければならないのですが、あちらこちらから土手を越えて人が会場に入ってくるのです。私は少し高い場所に移動し、人が会場に入っていく様子を見ながら、イエスさまが人々をここに集めておられることを実感しました。会場内には11の店を出し、来場された方々を心から歓迎し、一緒に楽しみました。200本用意したジュースは全部なくなり、後からおいでになった方々には、お詫びしなければなりません。2時間のイベントはあっという間に終わり、喜びに満たされて皆さんを見送りました。皆さん笑顔で帰って行かれるのを見て、イエスさまの愛を届ける今回のイベントの意義を改めて知らされ、感謝をささげたのです。

会場に一組のカップルがおられました。初めは何か事情がありそうな雰囲気でしたが、フェスティバルが始まり、その雰囲気に次第に表情が変わって

いきました。その方の心にイエスさまが触れてくださったのです。イエスさまは私たちの人生の様々な問題に触れてくださる方です。イエスさまが介入してくださると、5,000人の空腹が満腹に変わったように、空虚な心が満たされた心になるのです。フェスティバルによって人の心の変化を見せていただきとても感謝でした。

### 3. 真の満たしのために

フェスティバルを終えて帰って行かれる方々は大人も子供もみんな笑顔でした。その余韻がいつまでも続くようにと願います。

イエスさまは少年が持っていた5つのパンと2匹の魚を祝福して、群衆に配られました。食べ終えて余ったパン切れを集めると、12の籠でいっぱいになったとあります(13節)。イエスさまが与えてくださる祝福は、いつも人の心を満たして余りあるものなのです。そのことを教えるために、イエスさまはご自分のことを「いのちのパン」だと言われ、そのパンを食べる者は飢えることがないと約束してくださいました。「わたしがいのちのパンです。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。」(ヨハネ 6:35)。イエスさまを私の救い主として信じること、それがいのちのパンであるイエスさまを食することであり、そうするなら内側から満たし、飢えることも渴くこともない真の満たしを与えてくださるのです。

先のフェスティバルはそのための入り口なのです。フェスティバルの感動は時の経過とともに薄れて行きます。しかしフェスティバルの真の主催者であるイエスさまを心に迎えるなら、その人はもう渴かないのです。

### 結び

イエスさまは私たちに真の満たしを与えてくださる方です。今私は5,000人の給食に与った者の一人として、イエスさまの救いの恵みは確かに人の心を満たすことを証します。飢えることも渴くこともない真の満たしが一人一人の心に注がれますようにお祈りします。